

出題年度：2024 年度

<問 3>

【出題意図】

- ・新宿区立大久保図書館の事例のように、多様な言語による図書や絵本を手にすることができる環境をつくる意義や意味について、自身の経験も踏まえながら論じることができる。
- ・同館においては、外国語で書かれた「絵本」についての所蔵が多いため、出題文には資料種別の「絵本」を入れた。すなわち、外国にルーツのある子どもたちに対する視点も踏まえながら論じることができる。
- ・提示された文章から論点を抽出し、自身の意見を明確に述べることができる。
- ・制限字数内で一貫性のある主張と適切な構成を持った文章を作成することができる。

【模範解答（要点）】

題名：多言語資料を媒介に、ともに学び、ともに理解しあう

模範解答として、以下の内容を含めて論じられていることが望ましい。

- ・さまざまな国の言語や多様な文化に触れ、これまでの学んだ自分自身の経験が触れられていること。
- ・さまざまな国の言語を「読む」ということは、言語を「読む」ことに留まらず、その国の文化や習慣、歴史を理解し共感することにも通じていること。その延長線上には、多様な文化の学びあいが広がることと密接であること。
- ・こうした本に触れることにより、「〇〇人である」という国家の境界線を越えて、私たちはいわゆる「地球市民」であることに自覚的であること。
- ・「図書館に自国の本が1冊でもあると、この街に受け入れられている」というネパール人の利用者の言葉を踏まえ、さまざまな言語の本を図書館が提供していくことの意義（もしくは、地域社会全体が外国にルーツのある人々を受け入れていくことの意義）に触れていること。